

ベーコンエッグを食べながら考えたリーダーシップ

—マネジャーは参加ではなく献身しなければならない—

株式会社フェイスホールディングス 代表取締役 オグラ ヒロシ 小倉 広



はじめに

人生の中で、生涯の宝となるような本との出会いが稀であるのと同様に、多くの講演の中で、これほど完成度の高い講演を聴く事は稀ではないかと思われた。講演には、共感、デザイン、物語、調和、遊び、生き甲斐など幾つかのキーワードが入っている事が完成度をあげる要素だと筆者は思うが、本講演には、そのどれもが入っていた。且つ、講演者の人材育成に対する熱のようなものが伝わって、その内容は確実に聴衆の胸に刻まれたのではないだろうか。特に講演最後の“おやじの弁当”（筆者が勝手につけた題名）は、マネジメントのヒントとなる秀逸な話であった。

概要

《最初の一步でつまづく》

小倉氏はリクルート出身で、30歳にして課長職となり、部下をもつ身となった。若い彼は、チームをマネジメントして、最高の結果を出すことに全く不安感もなく、スタートしたが、部下からも全く信頼されず、その教えてやる！という高圧的な態度にチームは分解、最悪の結果となる経験をしている。

“上司は部下を3年で見抜く、部下は上司を3日で見抜く”まさに自らの力を思い知らされたという。